

地理歴史科（地理 B） 学習指導案

授業者 [REDACTED]

指導教諭 [REDACTED]

1 日時・場所 令和元年 6 月 19 日（水） 第 1 時限目（8 時 40 分～9 時 30 分）  
3 年 7 組 HR 教室（C 棟 4 階）

2 対象学級 3 年 7 組 36 名（男子 17 名、女子 19 名）

3 使用教材等 教科用図書 『新編詳解地理 B 改訂版』（二宮書店）  
補助教材 『新詳地理資料 complete 2018』（帝国書院）  
『山川一問一答地理』（山川出版社）  
機材等 ・ iPad  
・ ロイロノートスクール（アプリ）

4 単元名 第 4 章 生活文化と民族・宗教 第 2 節 言語と宗教 (1) 世界の言語 (2) 世界の宗教

5 単元目標 世界各国にはさまざまな人種、民族が存在し生活をしている。その中では文化や言語、宗教の相違がありそれらは時に紛争の原因にもなりうる。本単元では人種、民族、文化や言語、宗教等の多様性や相違を互いに認め合い、受け入れることとして、国際理解を図ることの重要性を理解できるようにすることを目標とする。

6 単元について 第 4 章では世界に分布する人々の生活文化、民族・宗教などに関わる諸事情についての学習を進めてゆく。それらの事象には空間的な規則性や傾向性、そして民族、領土問題とも深い結びつきがあり、その相関関係を学んでゆく。要因解決に向けては現状を本章で学習した上で、生活の多様性に対する認識や国際理解が不可欠である。

7 指導計画 第 4 章 第 1 節 衣食住 (1) 世界の衣服 (2) 世界の食文化 (3) 世界の住居  
第 2 節 言語と宗教 (1) 世界の言語（本時） (2) 世界の宗教（本時）  
第 3 節 民族と国家 (1) 国家の形成と領域 (2) 民族問題と領土問題 (3) 国家間の結びつき

8 生徒観 本クラスは、地理を学ぶことに関心が高く、地理に関わるさまざまな事象に関して意欲的に学ぼうとする姿勢が伺える。授業を聞く姿は積極的で、以前に学んだ知識を活かしながら多角的に考察し、課題解決の糸口を見つけることができる。入試難問や、発展的な設問になると特定の生徒による解答が多くなる傾向があるが、全員で授業を行い学び深めるためにも解決へのキーワードを示唆しながら皆で行う授業にするための運営をする。

9 本時の主題 本時は、世界の言語と世界の宗教の一部を学んでゆく。これまで第 4 章内で学習を進めてきた世界の人々の生活に地理的視点を用いて、言語や宗教という文化的な形式を理解をする。

10 本時の目標

世界の言語の違いと歴史地理の関連性を理解することができる。地理的視点を用いて、言語や宗教という文化的な形式を理解した上でその相違を理解し、多文化理解を深めることができる。言語の相違と宗教には強い相関性があり、歴史的、地理的に見ても深い結びつきがあることを理解する。

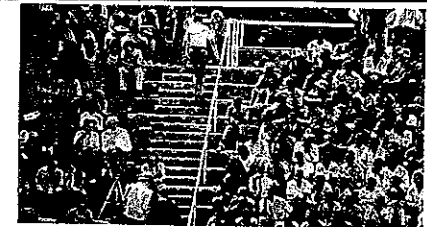
11 本時の展開

時間	学習内容	学習活動	使用教材	留意点
導入 5 分	前回までの復習として確認テストを行い、5 分を目安として解答と解説を行う。	世界の主な人種について理解する。小テストの実施（ロイロノートスクールノートを用いた学習を行う）	・ iPad ・ ロイロノートスクール（アプリ） ・ 小テスト用プリント	・ 要点を端的にまとめ、前回の要点を確実に押さえられるようにする。 ・ ロイロノートスクールの画面配信機能を用いて、作成した小テストを配信する。 ・ 今回は時間短縮の為 5 分間で解答と答え合わせまで行う。
展開① 導入 5 分	方言テスト（関西弁版）を行う	・ 言葉の違いが文化の違いとなることを理解する。 ・ 世界的に見ても小さな日本国内でもこのような差異が出でることを認識する。	・ iPad ・ ロイロノートスクール（アプリ）	・ 5 問ほどの出題 ・ 目的は、国内でも言葉の差異が生じることを理解させるためのに実施するという点を踏まえる。 ・ 導入の一環なのであまり時間をかけないようにする。
展開①-(1) 15 分	インドヨーロッパ語族、シナチベット語族、ウラルアルタイ語族、民族・人種島について学習する。	・ インドヨーロッパ語族の主な 3 つと少数語族の国家の分布の特徴を地図を用いて認識する。 ・ 各項目語族の特徴と地理的背景の関連性を理解する。 ・ プリントの穴埋めを行う。	・ 授業用プリント	・ 言語によって色分けされたヨーロッパの地図を用いて説明する。 ・ シナチベット語族の特徴として中国語が挙げられ、その使用者数の多さについて触れる。 ・ 民族・人種島について説明するにあたっては歴史的背景が不可欠だが本題ではない為、入り込んだ説明にならないようにする。

展開①(2) 12分	公用語を複数設けている国家とその背景や特徴について学習する。	・植民地時代などの歴史的、地理的背景について理解する。 ・隣接する国家との関連性を理解する ・プリントの穴埋めを行う。	・授業用プリント	・単純暗記にならないように地理的関連性やそれらの背景も含めて、視覚的資料を効果的に使用する。 ・歴史的背景も重要ではあるが、地理的アプローチに重きを置いた説明をする。
展開② 5分	・世界の主な宗教の導入として『世界がもし100人の村だったら②』より引用した宗教の部分の説明する。 ・もっとも割合の多いキリスト教から説明してゆく。	・世界に占めるさまざまな宗教の人口の割合をイメージし想像との相違を認識する。 ・世界のおよそ3割を占めるキリスト教の聖地とその宗派を理解する。	・iPad ・ロイノートスクール (アプリ) ・授業用プリント	・世界の人口を分かりやすい割合に縮小することでよりイメージ湧きやすくなると思うので、感じたことを自由に発言してもらう。 ・地理的分野から見た宗教を学んでゆくことを念頭においた説明をする。
まとめ 8分	言語と宗教の相関性を示した上で、次回さらに学ぶを深めてゆく為に振り返りをする。	本時の言語と宗教の関連性について理解する。	・授業用プリント	・多文化や国際理解の重要性を伝えた上で、言語の相違性や関連性、宗教との結びつきが理解できるような説明にする。

	問題	答え
566	南アフリカ共和国で 1991 年に廃止された政策で大多数を占める黒人を差別し、居住区の隔離、職業選択の制限などを行ってきた人種差別政策を何とよぶか。	
567	アメリカ合衆国における白人エリート支配層をさす造語で白人・アングロサクソン系・プロテスタントの略をアルファベットで何とよぶか。	
568	所得水準・社会階層・民族などによる居住地が分離、住み分けられている現象を何とよぶか。ヨーロッパの大都市やアメリカ合衆国 (ニューヨーク) でみられる。	
569	ヨーロッパ系移民の人々とインディアンとの混血を何とよぶか。	
570	国内の多種多様な人種・民族の融合を意味する「 <b>ミルチ</b> 」という考えに対し、多様な人種・民族集団が各自の文化・社会を維持し、各々の融和を図るという考えを何とよぶか。	

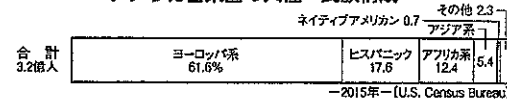
**用語** **人種隔離政策 ( 問題 566 )**  
 南アフリカ共和国において、少数派の白人が、黒人やカラード(混血)、インド系などの住民に対して、居住地や職業などあらゆる領域で区別した人種隔離政策のことを **問題 566** という。そもそも「**問題 566**」とは、現地のアフリカーンス語で「隔離」を意味する言葉であった。**問題 566** を支えてきた各種法律は、黒人の抵抗運動や国連の勧告などにより1991年までに撤廃された。



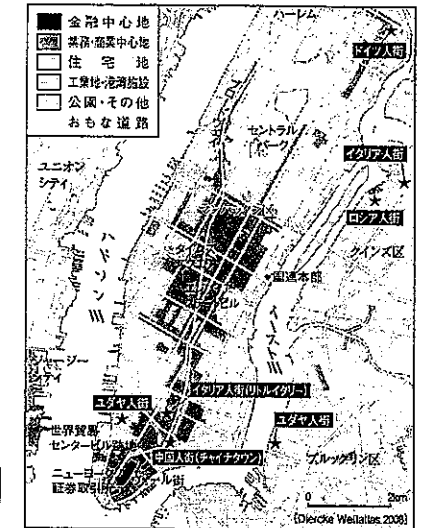
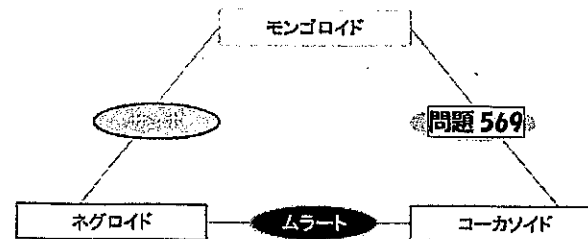
↑ ↓ **問題 566** 時代の観客席 (上) と2010年のサッカーワールドカップでの観客席 (下)



アメリカ合衆国の人種・民族構成



**用語** **問題 570** と **問題 567** アメリカ合衆国は、ヨーロッパ系、ヒスパニック、アフリカ系、アジア系などの多数の人種・民族が、それぞれの特徴を失わずに共存している社会であるため、「**問題 570**」といわれる。このような多民族社会の中で多数派を占めるのは、( **問題 567** ) : 白人・アングロサクソン・プロテスタント系の人々とよばれる人々で、この国の政治・経済・文化の発展に大きな役割を果たしてきた。



↑ ↓ 民族による住み分け ニューヨークには多様な移民が暮らし、イタリア人街や中国人街、ユダヤ人街など、移民の出身地域ごとの住み分け ( **問題 568** ) が顕著にみられる。 **問題 568** は、ロサンゼルスな

1. 主な言語

(1) インド=ヨーロッパ語族

語系	英語・ドイツ語・オランダ語・スウェーデン語・デンマーク語など
語系	フランス語・スペイン語・ポルトガル語・イタリア語など
語系	ロシア語・ポーランド語・チェコ語など
その他	ギリシャ語ヒンディー語・ベンガル語など

(2) シナ=チベット語族

\_\_\_\_\_語・チベット語・タイ語  
ミャンマー語

(3) ウラル=アルタイ語族

ウラル語族・アルタイ語族・セム=ハム語族・ドラヴィダ語族など

(3) 民族島 (人種島)・・・他の民族の中に離島のように存在する少数の民族分布地域。

ハンガリー・・・\_\_\_\_\_人 フィンランド・・・\_\_\_\_\_人 ルーマニア・・・\_\_\_\_\_人



2. 主な多言語国家

スイス 資p219	26の州・準州からなる多言語・多民族の連邦国家。 4つの公用語：_____
ベルギー 資p256	南部ラテン系言語の_____語と北部ゲルマン系言語の_____語及びドイツ語の3つの言語が使用されている。
カナダ	英語と_____州に多い_____語が公用語
フィリピン	フィリピン語 (タガログ語) と_____語が公用語。
マレーシア	マレー語・中国語・タミル語・英語を使用。 公用語は_____語のみとする _____政策

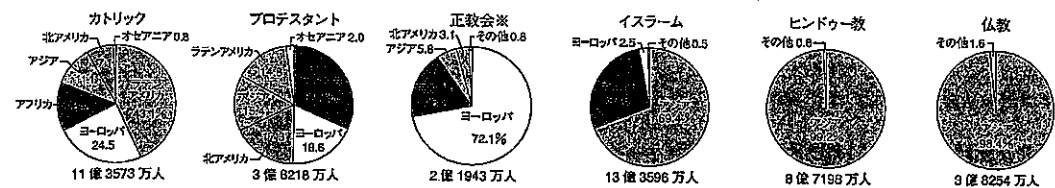


3. 世界の主な宗教

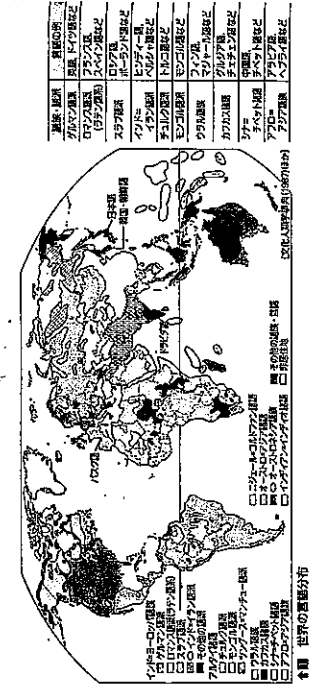
☆・・・聖地 ○創始者

教	_____ (旧教)・・・最も戒律的・儀式的で _____ を頂点にピラミッド型の僧職制度をしく。パチカン市国、サン=ピエトロ寺院を総本山とする。主として欧州・南米のラテン系が信奉。*東南アジアでは _____ で多く信仰されている
☆ ☆ ○イエス=キリスト	_____ (新教)・・・16世紀初めルター・カルヴァンらの旧教に対する宗教改革により成立。主としてゲルマン系が信奉。伴 収国教会など多くの宗派に分かれる _____ ...ローマ時代からカトリックと対立し 1054年正式に分離。スラフ系・ギリシャ人が信奉。
教	_____ 仏教 (北伝仏教)・・・一切衆生の救済を念願する菩薩の道を説く仏教。インドから 中国・日本・ _____ などに伝わった。
☆ ○仏陀	_____ 仏教 (南伝仏教/小乗仏教)・・・極めて厳格な戒律に従い、自ら悟りの域に達することを目的とした仏教。インドで発生したが、現在はスリランカ・ミャンマー・ _____ で盛ん。
教	_____ (スンナ) 派・・・イスラムの多数派 (イスラム教徒の 84%)、アラブ民族の精神的支柱。
☆ ☆ ○ムハンマド	ワハブ派・・・スンニ派にちかく、復古・改革運動の中心をおいている。サウジアラビアに多い _____ 派・・・イスラムの少数派 (イスラム教徒の約 14%)、イランでは最も多く信仰されている。 *聖典を _____ という
その他の宗教 (民族宗教など)	_____ 教・・・ _____ 人の民族宗教。シオニスム運動により、戦後イスラエル国建国。☆聖地 _____。 _____ 教・・・インドの民族宗教でバラモン教から発展した多神教。インド人の行動の規範となる伝統的な制度や習慣の基盤となり、牛を神聖視する。 _____ 制度との結びつきが強い。☆聖地は _____ ( _____ ) チベット仏教 ( _____ 教)・・・中国・チベット自治区、またモンゴルの人々が信仰 ☆聖地は _____ 儒教・道教・・・儒教は孔子の教説を中心に形成された倫理・政治思想。道教は中国の民間宗教で老子を開祖とする。現世利益の追求を重んじる宗教。 原始宗教・・・自然崇拜や靈魂宗教など未開民族の宗教。シャーマニスム・アニミスム・トーテミスムなど。

※最新の統計 (宗教人口) は資料p220でチェック



▲世界の宗教分布と宗教別人口



1 世界の宗教の分布

## 第2節 言語と宗教

◎ 私たちは多くの場合、日本語で言葉を分けるときは、どのように分類しているか。その集団の連いの分類には、かつては、身長や皮膚、毛髪の色など、身体的特徴にもとづいた人種という考え方が使われることが多かった。しかし、それでは厳密な分類ができないうえ、慣習にも結びつきやすかった。それに対し、今日では民族というところが重要視されるようになってきている。言語・宗教といったさまざまな文化的特徴にもとづいて、人類の集団を区分しようとするものである。生活様式や所属意識なども人々の集団をつくる共通項となるが、その基本になるのは言語と宗教である。

### ◎ ポイント補説

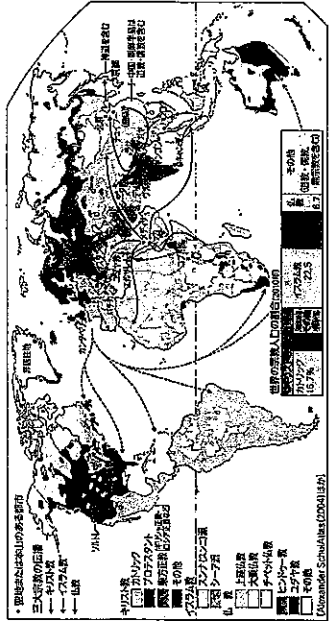
人類の意識がつかない間は、身体的特徴によるモンゴロイド・ヨーロッパイド・ネグロイドに分かれていたが、こうした特徴は、電子言語や印刷物の発明、移動や交通手段が高度発達して生活したのが原因で、近代以降の交通の便にも分断できるものではなくなり、加えて学識による人種の差別意識の弱体化により、集団間での区別が多くなり、文化的特徴がより重要視されてきた。

## 1 世界の言語

民族と... 有史以前から、人々はさまざまな集団をつくって生きてきた。その集団の連いの分類には、かつては、身長や皮膚、毛髪の色など、身体的特徴にもとづいた人種という考え方が使われることが多かった。しかし、それでは厳密な分類ができないうえ、慣習にも結びつきやすかった。それに対し、今日では民族というところが重要視されるようになってきている。言語・宗教といったさまざまな文化的特徴にもとづいて、人類の集団を区分しようとするものである。生活様式や所属意識なども人々の集団をつくる共通項となるが、その基本になるのは言語と宗教である。

言語には、音声言語(話し言葉)と文字言語(書き言葉)がある。どちら人も人々が集団内で生活し、互いに意志を伝え合い、世代をこえて文化を伝達するための手段となる。その意味で、言語は文化の最も基本的な構成要素といえる。現在、地球上には、多くの言語がモザイク状に複雑に入り交じって分布している(図1)。人々の自然な移動や運血だけではなく、民族同士の対立や政治の力による移動の結果であり、時代とともに大きく変化した。近代に入り、国民国家が成立するようになると、言語の異なる人々にも国民としての帰属を求め、同一民族としての一体感を高めようとして、言語の標準化が進められ、少数言語の話者は減少した。

しかし、もともと国家の領域と言語の分布は一致するものではなく、公用語の設定が民族問題の原因となることもあった。多民族国家のスイ



1 世界の宗教



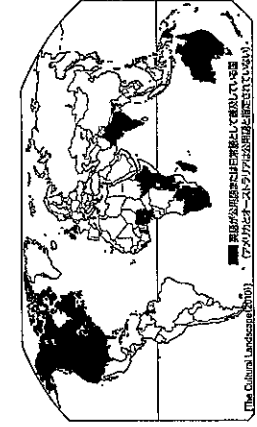
1 1 聖地牙哥の聖堂

## 2 世界の宗教

現存、世界宗教あるいは普遍宗教とされているのはキリスト教・イスラム教・仏教であり、これらは世界の三大宗教とよばれている。民族をこえて多くの人々に受け入れられる宗教と歴史をこえてあるからである。それに対して、ユダヤ教やヒンドゥー教、中国を中心とする道教、儒教や日本の神道などは、特定の民族と強く結びついていることから、民族宗教とよばれている。

代表的な一神教として知られるキリスト教やイスラム教は、西アジアで生まれて世界に広まった(図2)。ユダヤ教を母体としたキリスト教は、4世紀初めにはローマ帝国の国教となり、帝国の拡大とともにヨーロッパ各地に普及した。その後、西番のカトリック(旧教)と東部の東方正教、さらに北部のプロテスタント(新教)に分裂したが、ヨーロッパの世界進出とともに、「新大陸」の南北アメリカやオーストラリアに伝播した。ラテンアメリカにはカトリック教徒、アングロアメリカやオーストラリアにはプロテスタントが多い。

イスラム教は、7世紀前半に始まり、100年足らずの間に北アフリカやメソポタミア地方に広がり、さらに、南アジアや中央アジア・東南アジア・東アフリカなどに広まった。そうした拡大を可能にしたのは、軍事力のほかに交易路を確保していたからである。しかし、後継争いや教義をめぐる分裂し、スンナ派(スンニ派)はアラブの国々で、シーア派はイランやイラク南部で信託されている。仏教は、紀元前5世紀頃にインドのガンジス川流域で生まれ、南アジアから東南アジアや東アジアに伝播した。その過程で、教義の解釈から、



1 世界の言語の分布

スのように対立をうまく克服した国もあるが、ゲルマン語派とロマンス語派(ラテン語系)の言語境界に位置するベルギーや、バスク人をおかえるスペイン、フランス系住民をおかえるカナダ、シンハラ人とタミル人などかなるスリランカなど、現在も異なる言語集団間の対立に苦しむ国が多い。そのため、複数の公用語を定めたり、アフリカの国々のように、住民の母語とは異なる、かつての宗主国の言語を公用語とする例もある。

母語として使われている言語を、言語学的に同一の起源をもつと考えられる言語群、つまり語族ごとに示したものが図3である。インド=ヨーロッパ語族は、ヨーロッパ・ロシア・西アジア・インドにかけて分布している。特に、スペイン語・ポルトガル語・英語・フランス語などは、植民地支配の影響によって南北アメリカ・

オーストラリアなどの「新大陸」で広く話されている。シナ=チベット語族は、地域的にはそれほど広くは広がらないが、中国語が含まれているため言語人口は圧倒的に多い(表1)。中国語は、中国からおもに東南アジアにかけて分布している。中国文化の浸透や華僑の進出があったからである。アフロアジア語族は、西アジアから北アフリカにかけての乾燥地域に広がっている。イスラム教の普及によるもので、コーランの言語であるアラビア語が標準語になっていったからである。公用語として、多くはラジオ・テレビの普及もあって、多くの国々で方言が衰退し、共通語(標準語)が発達してきた。そのようななかで、ヨーロッパでは地方言語や少数民族語を保護する条約もみられる。一方、英語は、経済のグローバル化によって世界的に普及した。イギリスの一言語にすぎなかった英語が、国際共通語として広く世界で使われるようになったのは、近代に入ってイギリスが海軍国家として世界に進出したことや、第2次世界大戦後のアメリカが大国として世界経済に強い影響力をもつようになったからである(図4)。



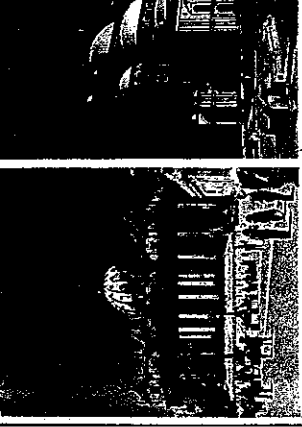
1 世界の宗教の分布

言語	話者数
中国語	12.08億人
スペイン語	4.1億人
英語	3.4億人
ヒンディー語	2.6億人
アラビア語	2.4億人
ポルトガル語	2.0億人
ベンガル語	1.9億人
ロシア語	1.7億人
日本語	1.2億人
ジャバネズ語	0.8億人

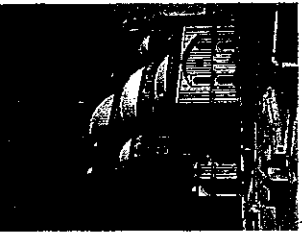
1 世界の宗教の分布

## ◎ 世界の言語

公用語・母語・共通語  
公用語とは、国家が法的に採用することを定めている語である。母語とは、母国の人々から自然に習得し、母国語を母語とする。また、共通語とは、方言の違いが大きい国や地域では、人々が理解し合えるように造られる言葉で、標準語ともいわれる。



1 1 聖地牙哥の聖堂



1 1 聖地牙哥の聖堂

スリランカや東南アジアを中心とした「通仏教」と、東アジアの大乘仏教に分かれた。しかし、アジアでは一神教のキリスト教やイスラム教と違い、もともと多神教と結びつきが強くあり、たとえば、インドではヒンドゥー教の要素によって仏教は衰退していった。

都市や経済の発達によって仏教の衰退は、合理的な考え方を重視するようになり、宗教の発展はかつてほど大きくは進まなかった。しかし、宗教が、人々の価値観や考え方を大きく、社会や文化に与えてきた影響は大きい。文字や建築、制度や技術などを広め、各地の社会発展と結びついてきた。たとえば、キリスト教の普及はヨーロッパにワイイン用のぶどう栽培を広げた。一方、インドのカースト制のように、ヒンドゥー教の重要な世界観ではあったが、社会の進歩をさまたげることになった側面もある。そして、宗教が民族間に対立を生む要因になっていることも多くみられる。たとえば、イギリスの植民地だった南アジアでは、独立時にイスラム教徒の多いパキスタン・バングラデッシュ、ヒンドゥー教徒の多いインドに分裂した。またユダヤ人国家イスラエルと周辺アラブ諸国との対立は現在も続いている。

宗教は、儀礼や祝祭日などを通じて、いまも人々の生活に深く関わっている。イスラム教徒は、1日5回、聖地メッカへの礼拝を欠かさず、食事の作法や衣服についてもコーランに細かく規定されている。また、食物禁忌の慣習も強く生きていく。イスラム教徒は豚肉や酒を口にせず、ヒンドゥー教徒は聖なる動物とされる牛の肉を食べない。また、キリスト教徒もキリストの足指とされる金曜日には肉を食べず、魚を食べる習慣が残っている。そして、エルサレム、パチカ、メッカ、インドのヴァラナシなど、聖地への巡礼は今もあとを絶たない。